2023 5

F·wave

藤沢市市民活動支援施設情報誌「エフ・ウェーブ」

特集：居場所と出番をつくる

藤沢市市民活動推進センターに 20 年近く前から登録している歴史ある市民活動団体「じゃおクラブ湘南」。現在も積極的に活動を行い、昨年度も分館（市民活動プラザむつあい）が実施している湘南台駅地下ギャラリーで団体紹介パネル展示にも参加していただきました。その長寿の団体がどのように活動を展開しているのか、何か秘訣があるに違いない、お話を伺い、多くの皆さんに知っていただきたいという想いから取材を申し込みました。

じゃおクラブは「おやじ」を逆さ読みして「じゃお」。「おやじ」をひっくり返して、いつも元気なおやじでありたいとの願いを込め 1991 年に創立しました。趣味のグループ活動、スポーツ、講演会、街歩き、地域の子供たちとの交流、ボランティアなど、幅広く活動しています。現在では 4 つの地域で活動しており、じゃおクラブ湘南は 1995 年に設立しました。

4 月に入り、活動の一つである「じゃお農園（協同農園・チャレンジ農園）」にお邪魔して、活動やメンバーの皆さんの想いを取材しました。

じゃお農園は藤沢市北部・打戻地域にある、慶応義塾大学湘南藤沢キャンパスに隣接した広大な土地を有する「株式会社永田農園」の一部を利用して、農園主・永田誠氏のご厚意・ご支援のもと、様々な野菜作りを行っています。

（つづく）

居場所と出番をつくる

取材時は 1 号畑ではじゃがいもの芽掻き、葱の移植作業。ほかには春キャベツ、葱、新玉ねぎ、分葱、エシャレット等が、ケース一杯に収穫されていました。2 号畑では耕運機トラクターを使って春の土づくりをしていました。農業用語では「春耕」と言うのだそうです。

当日は 16 名のメンバーが 1 号畑、2 号畑に分かれて作業されていました。内容は体力を使う作業や同じ姿勢の私たちが見ていても少し大変そうな作業をしている方も見受けられました。しかしメンバー同士で語り合いながらの作業はその大変さや辛さも吹き飛ばしてしまうほどなのでしょうか？！皆さんの顔は終始笑顔でした。

作業が終了し、帰り支度をする顔は、1 つの事を成し遂げたさわやかな感じがしました。そして「収穫した野菜は自分の家だけでは食べきれないので、近所の皆さんにおすそ分けをしているんですよ。これが地域との関わりに良い機会となっているんです。」と言いながら、ちょっぴり誇らしげに私たちには見えました。

取材にご対応いただいた島村さんが「『人と人との交流』そして『人と地域との交流』を大切にしています、また奉仕だけではなく、自分自身が楽しくなくちゃいけない」と話していたことが、「じゃおクラブ」が目指す「居場所と出番をつくる」につながり、皆さんがいきいきとしているのだと感じました。

「多岐にわたり活動がありますので、一番気を付けたいのは日付が重ならないようにして年間の計画を調整しています。」島村さんのお話とともに、取材当日にご用意いただいた年間スケジュール表には、様々な活動が数えきれないくらい記載されており、活動の活発さが伺えます。

活動にはじゃお農園をはじめ、男の料理、男声合唱等があるとのこと。「いま人気があるのは仮想投資クラブで、一人 1 億円（仮想）を株式・外貨等に投資して半年間の運用実績を競っています。俳句（四木会）も人気があり、会員で俳人協会会員の廣崎龍哉氏を主宰に迎えて、毎月 1 回実施、年に 4 回吟行で外に出ています」と活動をご紹介いただきました。

定年後、セカンドライフとして地域に戻ってきた男性は右も左もわからない状況であり、地域に馴染めない状況になっているかもしれません。そこに「じゃおクラブ」が中高年男性の居場所と出番を提供することで、大切な受け皿となっている、そう感じました。

最後に島村さんをはじめとした「おやじ」の皆さんが元気に活動をしている姿を見て、持続的な活動にはやはり「楽しさ」が大事ということを再認識しました。また、活動を継続するための努力は、長年の活動の中で経験したことがしっかりと継承されている事が印象的でした。（取材と記事作成：細矢・堀）

団体紹介

じゃおクラブ湘南

【【設立】 1995年4月
【担当世話役】 島村忠男
【連絡先】https://jaoclub.com/shonan/

じゃおクラブは中高年男性に交流と社会参加の機会を提供します。湘南、県央、ベイサイド、多摩田園の4つの地域に分かれており、じゃおクラブ湘南は1995年4月に設立しました。所属はお住いの住所で決まりますが、会員はどの地域の活動にも自由に参加できます。互いに交流することで活発な居場所作りが行われています。得意技を生かし、自分の居場所と出番をつくることで、健康維持を図り、生活を彩り豊かにしましょう。

対話型 AI と市民活動

NPO TIPS

ここ数年で、AI を用いたサービスが急速に普及してきました。画像生成 AI の話題は記憶に新しいですが、乗り換え検索、スマート家電など、日常生活の中でも活用が進んでいます。特に最近話題になっているのは、chatGPT、Bing AI などの対話型 AI です。今回は、2023 年 4 月時点でわかっている特徴や、活動で用いる際の注意点などについてお伝えします。

対話型 AI とは

一口に対話型 AI と呼ぶ場合には音声での応答を含みますが、現在ニュース等で話題になっているのはチャット型のものです。機械学習で大量のデータを取り込んでおり、自然言語処理技術でこちらが入力した質問等に回答するようになっています。会話形式のみではなく、各種プログラムコードや HTML、Excel の数式なども回答に含めることができます。

特徴

チャット型は入力した文字列に対しての回答となります。一般に、入力の際に条件を絞るとより適切な回答が出力されます。前述のようなコード、数式等の記述や翻訳、文章校正など、文字による出力が可能であれば何でも回答が返ってきます。回答内容の根拠や正確性については言語学習の結果として「適切と機械的に判断した」ものとなります。そのため、固有名詞について質問すると、でたらめな内容が混ざりがちです。

活動で用いる際の注意点

団体の性質にもよりますが、対話型 AI は文章校正、翻訳や要約など、市民活動団体における日常的な活用も可能なサービスです。しかし、他のサービス同様に個人情報や機密情報漏洩に関する危険性が存在します。まずは、そういった情報を含んだ文字列の入力は避けましょう。

また、特に固有名詞における正確性の不足から、出力された文章等における事実関係も確認しましょう。

まだまだ使い方の事例も蓄積しきれていません。団体で使用した場合には、質問および回答内容を保存して、使い方を共有・整理すえることでより効果的な使い方が見つかるかもしれません。

対話型 AI の広まりは、圧倒的な「敷居の低さ」に理由を求めることができます。簡単で便利な仕組みだからこそ、活用の際は注意すべき点を踏まえ、頼りすぎないことが重要です。

ミライカナエル活動サポート事業が始まります

なぜなにNPO vol.166

ミライカナエルサポート事業は、藤沢市が市民活動団体等の活動費を助成する事業です。「スタート支援」「ステップアップ支援」「協働」の3コースがあり、それぞれ支援対象が異なり、「協働」は実施期間が違います。「スタート支援」「ステップアップ支援」はいわゆる助成金ですが、「協働」は自分達以外の活動組織（民間企業・行政機関・NPOなど）との協力体制を構築し、特定の目的を達成するために実施する活動への助成となります。

協働事業の事例は国内では近年増加してきており、地域のまちづくりや防災、環境保全、福祉事業などが挙げられます。これらの事業においては、行政や民間企業だけでなく、地域住民やNPO、NGOなども積極的に参加し、地域の課題解決に取り組んでいます。特に藤沢市のミライカナエル活動サポートの協働コースでは、行政との協働だけではなく、企業と企業の協働もサポート対象となっていることが特徴で、2022年度から始まった事業は、2件ありますが、どちらも行政との協働ではなく、民間と民間の協働事業が実施されています。地域課題を解決するための手法の一つとして、専門的な知識や資金力が不足している地域でも、多様な関係組織の協力によって課題解決ができるメリットがあることから、今後期待される仕組みとなっていくでしょう。

しかしながら、異分野の組織が地域課題の解決に向かって事業を展開するためには、お互いの価値を認め合う必要があり、実施に向けた心構えが重要です。そのキーワードとして、「コミュニケーション」「目的の共有」「役割分担」「情報共有」があげられ、更に、不測の事態への処理解決に向けた調整や、事業が一過性で終了することのないようにお互いの将来に向けた戦略も考える必要があります。NPO運営の第一人者である山岡義典氏は、協働には「徹底した両者の対話」が必要不可欠とおしゃっていたことは忘れられません。

地域課題があり、自組織だけでは解決が難しいと思われるけれど、協力していただける組織があれば、取れる手段が増え、課題解決が進むことになります。地域課題を解決に導くため、協働という仕組みを大いに活用していくことは、テーマ型に活動をしているNPOにとって必要な仕組みなのだと認識できました。ミライカナエル活動サポート事業のエントリーは5月17日正午です。センター・プラザでは、申請のご相談も随時お受けしていますので、お気軽にお問い合わせください。（て）

講座・イベントの ごあんない

イベント	日時
■ミライカナエル活動サポート事業応募書類受付期間	5月8日(月) ～ 5月17日(水)
■マネジメント講座「NPOがメディアを動かすプレスリリース」	5月28日(日) 13:30～15:30
■ITサポート講座「らくらくWord講座」	5月29日・6月5日(月) 13:30～16:00
■プラザdeカフェ～身近なSDGs～地域の中を流れる引地川	6月11日(月) 10:00～11:30
■インターンシッププログラム受入団体募集	2023年6月11日(日)締切

NEW!

支援施設からのお知らせ

■2023年度ミライカナエル活動サポート事業

市では、市民や学生、事業者などによる、未来のまちづくりに向けた市民活動を支援する「ミライカナエル活動サポート事業」の提案事業を募集します。
設立間もない市民活動団体が対象のスタート支援コース、さらなる成長をめざす市民活動団体に向けたステップアップ支援コース、市民活動団体や事業者、市など2団体以上が連携する協働コースの3つのコースがあります。
応募をお考えの団体は、募集説明会や事前相談にお申込みください。

・募集概要

応募書類受付期間　2023年5月8日（月）～5月17日（水）正午
提出先　藤沢市市民自治部市民自治推進課
TEL　0466-50-3516　FAX　0466-50-8407
E-mail　fj-jiti-s2@city.fujisawa.lg.jp

■マネジメント講座「NPOがメディアを動かすプレスリリース」

プレスリリースを活用して多方面に効果的に広報する、SNSと連携し広報として使えるようになり、戦略的にフォロワーを増やして仲間づくりやイベントの集客やファンづくりにつなげることなどを目的とした広報スキルアップのための講座です。

日時：5月28日（日）　13：30～15：30
会場：市民活動推進センター・オンライン
料金：1,000円（学生・18歳以下無料）
講師：三浦悠介氏（㈱フジマニパブリッシング 代表取締役）
対象：市民活動を行っている団体や個人、ご興味のある方
定員：30名

■ITサポート講座「らくらくWord講座」

Wordの基本操作から、イラストや写真入りのチラシ作成、はがき作成、その他便利な活用方法まで、幅広い内容をカバーします。連続講座ですが1回のみの参加が可能です。　※初級～中級向け

日時：5月29日・6月5日（月）　13：30～16：00
会場：市民活動推進センター　会議室A
料金：2,500円（テキスト代含む。1回の場合は1,500円）
講師：藤沢市市民活動支援施設ITサポーター
対象：NPO・市民活動・地域活動にかかわっている方
定員：10名（先着順）

■プラザdeカフェ～身近なSDGs～地域の中を流れる引地川

身近な引地川、自然環境を保全するために私たちは何ができるのか。今回は六会地区内で活動をしている「さわやかクラブ」の活動から、地域を流れる川がもたらす自然環境について知り、親しむ機会を作ります。

日時：6月11日（月）　10：00～11：30
会場：六会公民館2階　第1談話室
料金：無料
講師：さわやかクラブ 代表 井上賢誠氏、同団体メンバー
定員：30名

■インターンシッププログラム受入団体を募集します

高校生～大学院生までのワカモノが約半年間、地域のNPO・市民活動団体でインターン生として活動するインターンシッププログラムです。本プログラムでは、ワカモノを受け入れてくださる団体を募集します。
募集数：10団体程度　※ワカモノは10名程度を予定しています。
申込締切：2023年6月11日（日）
活動期間：2023年7月16日（日）
～2024年2月29日（木）（約半年間）

発行：藤沢市市民活動支援施設
本館：市民活動推進センター
開館時間 9:00～22:00　火曜休館
※日・祝は9:00～20:00
〒251-0052
神奈川県藤沢市藤沢1031 アーバンセンター藤沢2F
TEL：0466-54-4510 FAX：0466-54-4516
Eメール：f-npoc@shonanfujisawa.com

分館：市民活動プラザむつあい
開館時間 9:00～17:00　月曜休館
〒252-0813
神奈川県藤沢市亀井野4-8-1 六会市民センター2階
TEL＆FAX：0466-81-0222
Eメール：f-npoplaza@shonanfujisawa.com

編集：認定NPO法人 藤沢市民活動推進機構（藤沢市市民活動支援施設　指定管理団体）

※この情報誌は、サポートクラブのメンバーのご協力により、皆さまのお手元に届いております♪
サポーターも随時募集中です！